

2023年度第3四半期決算説明会 質疑応答（要旨）

- Q1：** 通期の営業利益計画について、生活関連事業は35億円減額した。国内事業と海外事業の利益計画をそれぞれどのように変えたのか。背景も含めて教えてほしい。
- A1：** 主にメアリーベール工場を中心に、前回の説明のときよりも収益が悪くなっている。パルプの転換が少し遅れている影響で、全体として原単位が悪くなっているなどの影響が出ている。また、前回想定したよりも輸出市況が若干悪くなっている。
- 一方でメアリーベール工場以外のパッケージについては、値上げ効果とコストダウンの効果が一定程度出ているので、足元、既に黒字に転じている。パッケージはむしろ予定よりも前倒しで構造改革が進んでいる。
- 米国のNDPは、パルプ市況の下落や、トラブル等で販売数量が一部落ちてしまったという影響を受けているので、前回の説明よりも悪くなっている。
- 第2四半期の時と比べると、Opalで11億円悪化、NDPで10億円悪化している。
- Q2：** 来期は、Opal社の損益改善が非常に重要な課題になると思うが、固定費関連など確実に計算できる増益要因は来期にどのくらいあるのか。
- A2：** 以前にも話した通り、2024年度は、固定費をA\$50百万削減することを計画している。これについてはしっかりやり切りたいということで進めている。
- Q3：** 第2四半期決算の際には、コストダウン効果が約100億円/年だったと思うが、今回の決算では、70億円強/年になっている。原価改善が従来見ていたよりも30億円程度少なくなったのは、全般的に数量が弱く、なかなかコストダウン効果が見られていないのか。それとも何か他に要因があるのか。
- A3：** 足元の数量が想定よりは落ちているので、その影響はもちろんあるが、我々の想定より一番悪くなったのは原価改善。理由は一時的な操業不調。原価改善として当初考えていたことは、むしろ前倒しで進めてきている。計画したことはしっかりできている。操業不調は一時的なものだと思っているので、今後しっかり回復させていきたい。

以上